

令和7年度 秋田県 英語教育改善プラン

目標

主体的に自分の考えや気持ちを発信しようとする態度を育成する。

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
(R4:96.3% R5:98.9%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語の授業の内容がよくわかる」と回答した児童の割合
(秋田81.9 全国78.3)

未だ改善が必要な点

①「児童が1人1台端末・パソコン等を用いて発表ややり取りをする活動」の実施割合について、引き続き改善の余地がある。
(参考：R5:84.0%)

②小学校に所属する英語担当教師のうち、CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合
秋田:2.9% 全国:4.3%

2. 要因分析

①②各教育事務所の学校訪問、市町村単位の授業研究会、県教委の小学校外国語教育集中実践セミナーなど、多くの取組の結果によるものと考えられる。

①言語活動において、正確性が重視される傾向にあり、児童が主体的にALTやICT機器等を活用して活動する機会が十分でないと考えられる。

②小学校においても、若手教員を中心に英語力の向上は見られるが、外部試験を受験するといった具体的な行動まで結びついていないケースが多いと思われる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②言語活動の質的向上に結びつく取組の推進

- 令和6年3月に発出した「小学校版あきた型学習到達目標リスト〔CAN-DOリスト〕」と「パフォーマンステスト例」について、活用例などを研修の機会を活用して提示する。
- 平成21年度から国際教養大学と共催で行っている「小学校外国語教育集中実践セミナー」は、毎年40名の小学校教諭が受講している。大学教授によるワークショップ、ALTとの模擬授業など研修内容をブラッシュアップし、継続していく。
- 各教育事務所や教育センターと、学校訪問での指導内容や研修内容、各課所で行っている事業についての情報共有を行い、県として各小学校に一貫したメッセージを伝えていく。

①児童の主体性を引き出す言語活動の推進

学校訪問や研修等の際に、児童個々の伝えたい内容を大事にした指導の手立てが講じられているかを見取ると同時に、好事例を示しながら指導・助言する。

②一定の英語力を有する小学校教員の新規採用の継続

- 教員採用試験の「小中学校の社会人等特別選考」において、外国語科目を新設し、若干名の採用を予定している。
- 小学校教員の英語力向上の一助とするため、小学校教員も対象に含めたTOEIC L&R IPテストの受験料助成事業を継続する。

令和7年度 秋田県 英語教育改善プラン

インプットとアウトプットの往還を通して生徒の発信力強化を目指す。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 42.0% ⇒ R7 : 58%)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①スピーキングとライティングのパフォーマンステストを両方実施している学校の割合。

(R4:90.0% R5:93.2%)

②R6全国学力・学習状況調査の質問調査：英語を読んで概要や要点をとらえる活動について、90.4%の生徒が「行われていた」と回答。

① R6全国学力・学習状況調査の質問調査：即興で自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動について「行われていた」と回答した生徒の割合76.2%。

②求められる英語力 (CEFR B2レベル相当以上) を有する英語担当教師の割合

(R5:36.4% R6:36.1%)

2. 要因分析

①学校訪問での指導、校種間連携推進を目的とした小・中・高の各種授業研究会への参加などを通して、「指導と評価の一体化」についての理解と実践が進んでいるものと考え。

②各校において、訳読指導よりも概要や要点を捉える言語活動の充実が図られたことが要因と考えられる。

①「話すこと」の前に「書くこと」に時間を多く割いたり、例文や定型文を指示しすぎたりして、「即興で話す言語活動」が少ないことが要因の一つと捉えている。

②県などが主催する研修の周知に改善の余地があり、研修の機会の提供が不十分なため、自己研鑽の取り組みに課題が見られる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②言語活動の質的向上に結びつく取組の推進

- ・生徒の英語力向上につながるよう、県から発信している「スピーキングテスト」の活用例を各種研修等の機会に示し、各校の効果的なパフォーマンステストの実施につなげる。
- ・各校で設定した学習到達目標を活用し、指導と評価の改善に役立てていけるよう、引き続き各種研修等で言語活動の具体例を示し、その実践を促進する。

※「あきたの英語 指導事例集」 美の国あきたHP

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/23252>

①「即興でやり取りする言語活動」の推進

- ・各教育事務所や教育センターと、学校訪問での指導内容や研修内容、各課所で行っている事業についての情報共有を行い、各中学校の言語活動の充実を図る。
- ・「あきたの英語 指導事例集」内の「Small Talk Questions」の周知、各種研修の機会に具体的な好事例の提示等を通して、各校における実践の促進を図る。
- ・県のイングリッシュキャンプとファンライティング事業を継続し、生徒の英語学習意欲向上と、自分の考えを表現する機会の充実を図る。

②教師の英語力向上事業の推進

- ・希望者を対象とした英語力向上研修を実施する。
- ・TOEIC L&R IPテストの受験料助成事業を継続する。

令和7年度 秋田県 英語教育改善プラン

統合的な言語活動を通して生徒の発信力強化を目指す。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 52.4%、B1以上 14.8% ⇒R7 : A2以上 68%、B1以上 18%)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語担当教師の英語力の状況
CEFR C1レベル以上を取得している教師の割合
R5:15.7%⇒R6:20.7%

②高校生即興型英語ディベート大会への参加者数
R3:54⇒R4:60
⇒R5:75⇒R6:90 (人)

未だ改善が必要な点

①スピーキング・ライティング両方のパフォーマンステストの実施状況
(R5:28.3% ⇒R6:25.5%)

②授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合
(R5:44.7% ⇒R6:41.2%)

2. 要因分析

① TOEIC L&R IPテストの受験料助成(80名)、県の研修会等で外部検定試験の特別受験制度について紹介、などの取組が功を奏したと捉えている。
②各種研修、発信力強化研究開発プロジェクト事業、高校生対象のイングリッシュキャンプでのディベートやディスカッション等の言語活動など、幅広く周知・実施してきた成果と捉えている。

①指導と評価の一体化のためにはパフォーマンス評価が定期的に行われることが必要であるという理解がまだ十分とは言えない。

②「教科書を教える」から「教科書で教える」ことへの授業の転換が十分とは言えないこと、言語活動を主軸とした指導が不足していることなどが主な要因であると捉えている。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①教師の英語力向上事業の推進
- ・希望者を対象とした英語力向上研修を実施する
 - ・TOEIC IPテスト(オンライン)の受験料助成の事業を継続し、英語担当教員が自身の英語力向上に取り組めるよう支援する。
- ②ディベートやディスカッションを取り込んだ言語活動
- ・生徒の「英語での発信力」「論理的思考力」「コミュニケーション力」等を育成し、グローバル社会で活躍する層の拡充を図るため、引き続きディベートやディスカッションを取り込んだ授業改善を推進する。生徒の力を試す場として、8月に「即興型英語ディベート大会」、秋にオンラインによるディベートの練習試合を県主催で実施する。
- ①②統合的な言語活動とパフォーマンステストの充実
- ・「AIの活用による英語教育強化事業」のモデル校における実践例を研修等で取り上げ、各校の実践につなげる。
 - ・県内大学と連携した「発信力強化研究開発プロジェクト」において、拠点校での授業研究会の実施と、「秋田県教育研究発表会」での実践共有を図る。
 - ・学校訪問の際の授業研究会の事前・事後の指導で、統合的な言語活動の充実を図る。
 - ・教科書の内容だけに終始した授業からの脱却を図る方策の一つとして、ALTの一層の活用を促していく。

秋田県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	66	52.8	68	52.4	68		70		70		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	10	15.2	16	14.8	18		20		22		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	65	44.7	65	41.2	65		70		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	55	28.3	55	25.5	55		60		60		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	54.8	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	77	68.5	77	63.2	77		78		78			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	55	23.2	55	30.7	55		60		60			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	56	46.9	58	42.0	58		60		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	98	87.4	98		98		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	95	93.2	95		95		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	60	86.5	90		90		92		94	
		達成状況の把握(%)	100	82.7	90		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	52	36.4	52	36.1	52		54		54		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	83.9	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	84	100		100		100		100
		公表(%)	55	50.3	60		60		65		65
		達成状況の把握(%)	100	71.4	100		100		100		100